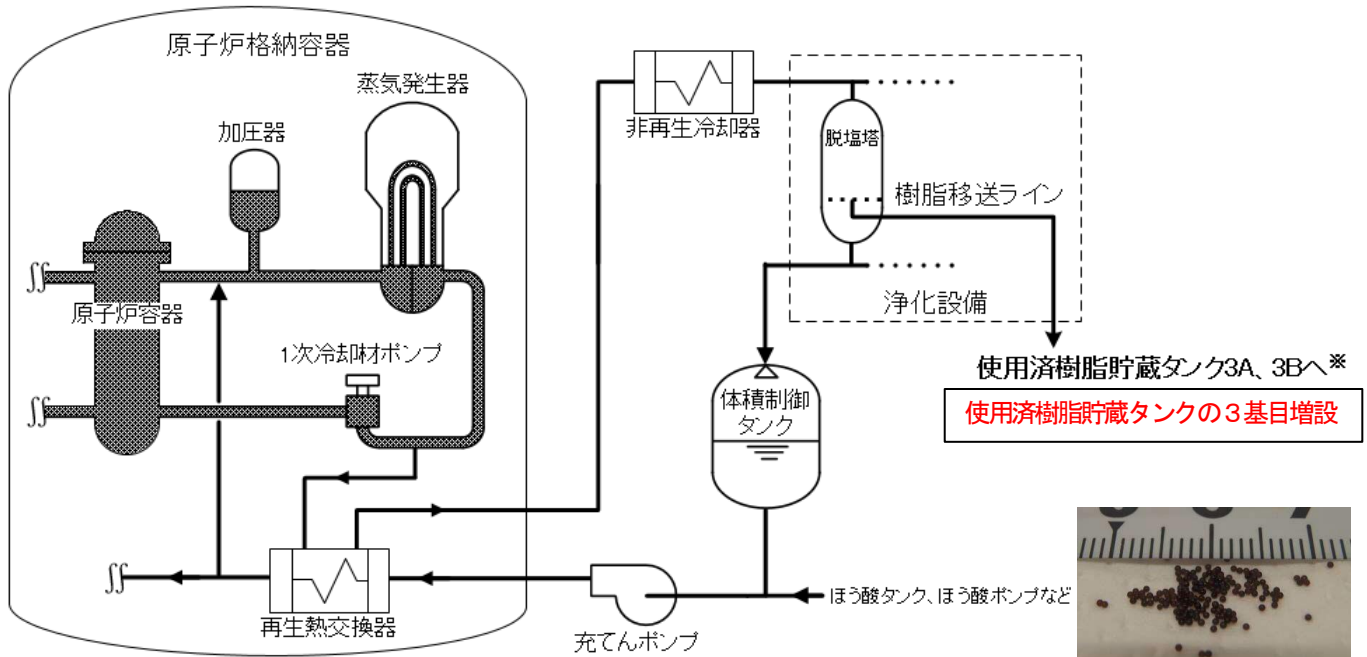


使用済樹脂貯蔵タンクの増設の概要

使用済樹脂貯蔵タンクは、1次冷却材等を浄化するための脱塩塔で使用した使用済樹脂を一時的に貯蔵し、放射能を減衰させるための設備。

現在、原子炉補助建屋内に2基設置しているが、今後、伊方発電所3号機の運転に伴い発生する使用済樹脂量を考慮して、建設時より増設用に確保していた場所に、新たに3基目のタンクを設置することとしたもの。本設備については、令和8年度中に設置する計画としている。



※ この系統以外の脱塩塔からも使用済樹脂受入を行っている。



樹脂（イメージ）

伊方発電所3号機 使用済樹脂貯蔵タンク増設に係る概略系統図

（出典：四国電力株式会社）

【用語の説明】

- 原子炉容器：燃料集合体・制御棒等を納め核分裂による熱を発生させる容器。
- 原子炉格納容器：原子炉および蒸気発生器などの一次冷却設備を格納する容器。
- 1次冷却材：原子炉容器内でウラン燃料の核分裂により発生した熱エネルギーを取り出すための放射性物質を含む水。
- 使用済樹脂：一次冷却材中に含まれる放射性物質を除去するためイオン交換樹脂を使用する。この樹脂の性能が劣化した場合に、脱塩塔から抜き出し、使用済樹脂として使用済樹脂貯蔵タンクに一時的に貯蔵する。
- 浄化設備（脱塩塔）：樹脂（イオン交換樹脂）を収納する脱塩塔に一次冷却材を通水することにより、一次冷却材中の不純物を除去する設備。